

2020 年度 文化庁委託調査研究事業報告書

文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究

～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～



一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

目 次

- 第1章 本事業の概要と実施状況
- 第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施
- 第3章 脚本現物のデジタル化について
- 第4章 目録の作成及びデータベース公開について
- 第5章 大学機関との連携研究
- 第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究
- 第7章 検討委員会
- 第8章 シンポジウム等のイベント
- 第9章 脚本アーカイブズ活動の今後の展望について

第1章 本事業の概要と実施状況

1. 事業名

文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究
 ～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～

2. 目的

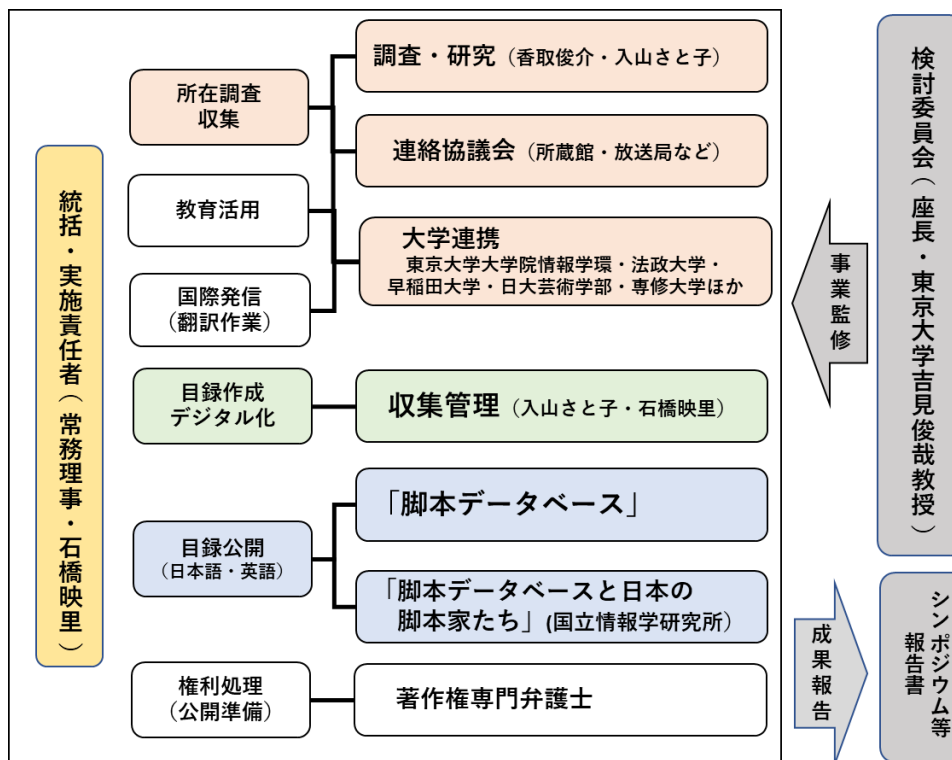
歴史的・文化的価値のある放送（テレビ・ラジオ番組）の貴重な文化関係資料が散逸・消失することがないように、資料の保存及び活用を図ると共に、デジタルアーカイブ構築推進を目的とした調査研究を行う。

3. 事業期間

2020年4月1日～2021年3月31日

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究	脚本収集、書誌入力随時											
2 目録の作成及びデジタル化（目録に関する研究）	目録データベース改修/人物データ階層追加											
3 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究	放送ライブラリー、川崎市市民ミュージアムとの連携						NHKアーカイブス訪問		大学連携研究データベース構築		川崎市市民ミュージアム寄贈資料の交渉	
4 委員会の開催、シンポジウム	展示会①～④（3か月ごとに展示替え）					検討委員会		分科会		シンポジウム		検討委員会

4. 実施体制



5. 2020年度の研究調査事業概要

今年度の研究調査事業において、新型コロナウイルスの影響は看過することができない。関係機関や放送局への訪問の道が閉ざされ連携研究が困難となった。また川崎市市民ミュージアム被災後、作業場として活用させて頂いている法政大学多摩キャンパスへの入構も控える形となった。

その一方、厳しい状況下に関わらず、昨年度末に駆け込みで寄贈された資料を各自宅に輸送し、手分けして入力作業を実施。あらすじも集中作成し、完全テレワークが実現できた。

さらに、倉庫に保管中の300箱以上の脚本について、大学連携チームの協力のもと、大部分の表紙撮影を終了し、データベースの画像掲載数が飛躍的に増加したことも大きな成果であろう。

5.1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究(脚本現物資料の研究)

①脚本の所蔵調査および収集の実施

3月末までにカウントできた寄贈脚本は、3,984冊。

年間を通して積極的に脚本の寄贈を呼掛けられる状況ではなかったが、自粛生活で脚本を整理された例も多く見られた。

現在までに収集した総数は107,676点。移管・保管状況は下表のとおりである。

特筆すべきは、長年懸案となっていた「複本」の寄贈先として国際日本文化研究センターが新たに加わった点である。今年度はまずラジオの複本など808冊を受け入れて頂いた。今後はテレビ脚本の複本などの段階的な寄贈を予定している。

【収集した脚本内訳／移管先】

分類	寄贈・移管先	総計
1980年以前の放送脚本	国立国会図書館(移管済み)	27,219
	住友倉庫保管(国立国会図書館へ寄贈希望)	29,741
1981年以降の放送脚本	川崎市市民ミュージアム(23,840冊公開済)	26,756
映画シナリオ	国立映画アーカイブ(955冊倉庫保管)	2,711
演劇台本	早稲田大学坪内記念演劇博物館(803冊倉庫)	1,426
生原稿(世田谷由来の作家)	世田谷文学館	91
ラジオ複本ほか	日本国際文化研究センター	808
生原稿(NHK放送分)	倉庫保管(NHK放送博物館と交渉中)	434
アニメ	倉庫保管、未入力分は法政多摩校舎	9,776
歌謡ショー等イベント	住友倉庫保管(移管先未定)	421
複本ほか資料	法政大学多摩校舎倉庫保管(移管先交渉中)	4,879
複本	寄贈元放送ライブラリーへ返却(移管先検討中)	2,103
NHK放送の複本	NHKアーカイブスへ返却	633
劣化、個人資料など	返却・廃棄	678
総計		107,676

②脚本現物のデジタル化について

・「表紙」撮影(1980年以前の脚本資料)

国会図書館への寄贈を希望している1980年以前に作成された脚本のうち、倉庫保管分の24,060冊について撮影を実施。

・ラジオ脚本、映画資料「表紙」撮影(合本)

倉庫保管中の合本など1,882冊について撮影を実施。

・アニメ脚本「表紙」撮影

昨年度および新規寄贈分のアニメ脚本3,436冊について撮影を実施。

・市川森一氏 創作ノート等の本文撮影

故・市川森一氏が脚本執筆の際に使用した、直筆の創作ノート等13冊を全文撮影。

スキヤニング数は563ファイル。

※いずれも(株)ニチマイに輸送し、貸出す形で作業を行った。

③脚本家等の証言録取

・脚本家への所蔵把握と共に、脚本家へオーラルヒストリー(証言録取)を行った。

マスクを外した形で密になる場所での撮影が難しいため、ZOOMを利用して録画を実施。

さらに過去に撮影した動画を編集し、YouTubeを経由してWebに掲載した。

・日本放送作家協会と連携し、人気番組の制作秘話をトークイベントの形式で証言録取した。

・同協会が放送した広報番組(ラジオ日本)で収録した250名(2回分収録)インタビュー音声のテキスト化準備として、約460件のCDと台本のデータ変換を行った。

5.2 目録の作成及びデジタル化に関する研究

①目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、著作権典拠データ検討、国際発信の研究

公開済「脚本データベース」 <http://db.nkac.or.jp/> について下記の拡充を行った。

・収集した脚本の目録を入力し、「脚本データベース」に順次追加掲載した。

現在、82,834点を掲載。書誌データと共に新規撮影した表紙画像が追加された。

・蓄積した著作者のデータについて、既存の脚本データベースについて「脚本家」のテーブルを追加した。

・あらすじ追加を実施するほかキーワード入力の項目検討を継続して行った。

・脚本所蔵情報および、以前より連携している所蔵館の書誌データ項目を精査し、書誌データの標準化を目指し「脚本データベース」目録項目の再検討を継続して行った。

・所蔵機関連携については、川崎市市民ミュージアムおよび放送ライブラリー、NHKアーカイブスとの連携のみ行った。そのほかの所蔵機関へのヒヤリングは、度重なる緊急事態宣言により訪問が難しく、具体的連携は次年度継続して実施する。

・異なるコンテンツ(アニメ、映画、音楽など)を連携検索する「JACCサーチ」の連絡会を通じ、国際発信を視野に、すでに公開中の英語版を拡充し、作品「あらすじ」英訳の追記を継続

的に行った。

- ・デジタル化した資料について、インターネット掲載許可を受けた資料につき掲載準備を実施。

②大学機関との連携研究

現在の連携大学機関：東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、国立国語研究所。

- ・子どもの教育活用のほか、シニア世代への社会的活用を調査し活用を実施検討していたが、毎年開催していたワークショップはコロナ禍において中止。
- 「回想法」については研究者と連携し、博物館での実施モデルに次年度開催予定。

③脚本家に焦点をあてたデータベースの改修 ※大学機関との連携研究にて構築

- ・著作権の典拠リストとしての活用を目的として、主に昭和に活躍した脚本家に焦点を当てたデジタルアーカイブを大学研究者チームと共に構築し公開した。

「日本の放送番組・アニメーションから見る 脚本データベースと日本の脚本家たち」

<https://basdj.nkac.or.jp/>

- ・各作家の作品リストを調査し、その所蔵状況を把握し、未収集分の脚本について「作品目録」の作成を目指し、日本の脚本家を抽出し紹介した。
- ・日本放送作家協会との連携により、前述の 250 名のラジオ音源をもとに「放送作家の証言アーカイブ」を構築し、オーラルヒストリーと共に公開する方法の準備を開始。
- ・脚本家のデータについて、VIPO 作成の「クリエイターズバンク」と連携した。

④「ジャパンサーチ」との連携 <https://jpsearch.go.jp/>

- ・現在、国立国会図書館が中心として開発した「ジャパンサーチ」へ、JACC サーチを経由して「脚本」の書誌データを提供。今後、表紙データやあらすじなどの提供を予定している。

5.3 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

①所蔵館の連絡研究

調査結果では、全国で脚本の所蔵館は公共図書館約 100 か所、その他文学館・資料館も 30 か所以上で「地域資料」として分散保存され、多くは OPAC にも掲載されていない。過去の調査結果を踏まえ、公共図書館アンケートを再調査すると共に目録を再整理した。前述した通り、新たに公開した大学連携で作成しているデータベースにおいて、所蔵館の目録を活用する方法について引き続き検討した。

②放送局との連携に向けた研究

- ・昨年度に引き続き、在京キー局および制作会社等にもヒヤリングを計画していたが、コロナ禍で多くの製作現場で撮影や収録が中止する中、外部の者の入館は厳禁となった。個別の連携案件として、シンポジウムやセミナーを通し、放送局に向けて脚本アーカイブズ

活動のアピールにとどまった。次年度、オンラインを使用した連携の呼びかけを検討する。

5.4 委員会の開催、シンポジウム、その他イベント

①「脚本アーカイブズ検討委員会」の開催

- ・第1回検討委員会 10月13日
- ・第2回検討委員会 3月24日
- ・分科会 11月13日

②シンポジウムの開催

シンポジウムをオンラインで開催した。参加者316名（申し込み395名）

- ・脚本アーカイブズシンポジウム2021『脚本を残し未来に語り継ぐこと』
- ・日時：2021年2月14日（日）13時30分～17時（ZOOMウェビナーにて開催）
- ・主催：文化庁、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
- ・共催：法政大学大学院日本放送脚本データベース研究所
- ・後援：国立国会図書館、NHK、日本民間放送連盟、日本脚本家連盟、日本放送作家協会、放送文化基金
- ・プログラム
 - 【はじめに】挨拶／活動報告
 - 【第一部】鼎談「脚本アーカイブズのさらなる展開に向けて」
池端俊策氏（脚本家）
高野明彦氏（国立情報学研究所 教授）
（司会）吉見俊哉氏（東京大学大学院情報学環 教授）
 - 【第二部】パネルディスカッション「脚本に込められた想いとほ」
大石静氏（脚本家）
磯山晶氏（TBSプロデューサー）
岡室美奈子氏（早稲田大学演劇博物館館長）
（司会）藤田真文氏（法政大学教授、NPO 放送批評懇談会 常務理事）

③若手制作者向けセミナーを開催した（共催：VIPO）

- 第一回：脚本家・金子ありさ氏×磯山晶氏（TBS スパークル）×聞き手・中町綾子氏
- 第二回：脚本家・中園ミホ氏×内山聖子氏（テレビ朝日）×聞き手・さらだたまこ氏

④日本放送作家協会との連携トークイベント（後援事業）

日本放送作家協会主催のトークイベント“カフェラテ plus”について後援事業として、Zoomウェビナーの管理や集客に協力を行った。人気番組等のクリエイターをゲストに放送作家が聞き手となり、番組の舞台裏を生配信の形で語る形式で行った。

1. 「ポツンと一軒家」の放送作家・伊藤正宏氏（聞き手・村上卓史氏）

2. 「裸の大将」シリーズのプロデューサー・内丸摂子（聞き手・さらだたまこ/東海林桂）
3. 「SASUKE」演出家・乾雅人氏（聞き手・村上卓史）
4. 「創作ドラマ大賞受賞者」による公募について（聞き手・井出真理）
5. 「麒麟がくる」の脚本家・池端俊策氏（聞き手・さらだたまこ/東海林桂）

⑤展示企画

映像を所蔵する放送番組センターと連携し、放送ライブラリー内の1コーナーに脚本15～20冊を展示。年4回を目標に展示替えを行い、脚本アーカイブズ活動の周知を図り、脚本への興味を喚起した。

1. 1月～6月(休館時期含む)『懐かしのTVアニメ』
2. 7月～9月『医療ドラマ』
3. 10月～12月『おいしい「食」の脚本展』
4. 1月～3月『冬はホットに恋愛ドラマ』

第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施

1. 収集作業について

1.1 今年度の収集実績

令和2年度に収集し、3月末までにカウントできた寄贈脚本は3,984冊であった（下表）。

新型コロナウイルス感染対策で5月下旬からの活動開始となり、年間を通して積極的に脚本の寄贈を呼掛けられる状況ではなかったが、過去に寄贈された方や過去に送付した寄贈の呼掛けの手紙を見て寄贈を申し出てくださった方が大半であった。自粛生活で家を片付けて脚本を整理された方もあり、コロナ禍は収集に悪い影響ばかりではなかったと言える。前年度に川崎市市民ミュージアムが被災閉館後、作業場の縮小を余儀なくされ一部入力作業をテレワークですすめていたこともあり、今年度の自粛期間中も書誌情報の入力作業やデータ検取作業のテレワークにスムーズに移行することができた。

1.2 令和2年度の収集実績

	寄贈元	寄贈者	作業状況	1980年前 (NDL) 冊	1981年後 (川崎) 冊	映画	演劇	アニメ	重複	寄贈者 別冊数
1	吉岡たかを(2回目)	作家本人	入力済					438		438
2	川崎市市民ミュージアム	関係機関	入力済	9	2	1			3	15
3	鎌田敏夫	作家本人	入力済		5					5
4	横浜フィルムコミッション	関係機関	入力済		274	42			9	325
5	故・鈴木悦男	作家遺族	入力済	78	33		6	1	3	121
6	故・渋谷幹雄	制作者遺族	入力済		35			1	8	44
7	三浦浩児	作家本人	入力済					522		522
8	柏原寛司	作家本人	入力済	16	36			16	1	69
9	故・馬嶋満	作家遺族	入力済	1		2		34		37
10	放送作家協会	関係機関	入力済			4				4
11	志鷹愛子(2回目)	その他	入力済		29				50	79
12	故・舟橋和郎	作家遺族	入力済	124		200				324
13	石原プロモーション	制作関係	入力作業中	138	929					1,067
14	故・鈴木康仁	制作者遺族	未入力	3	26		45			74
15	故・志賀広太郎	俳優遺族	入力済	1						1
16	エッジワークス	制作関係	未入力					760		760
17	故・青野暉	作家遺族	未入力(冊数未確認)							0
18	故・升本喜年	制作者遺族	未入力	66	3	30				99
			合計	436	1,372	279	51	1,772	74	3,984

2. 寄贈者別詳細

以下、今年度に寄贈のあった脚本家・政策関係者と寄贈脚本の概要を紹介したい。

①吉岡たかを氏（脚本家）

平成 30 年度にもアニメ脚本 264 冊をご寄贈いただいたが、今回は前回は上回る 438 冊のアニメ脚本をご寄贈いただいた。（寄贈があったのは令和元年度の 2020 年 2 月だが、新型コロナの影響で整理作業ができなかったのが今年度の寄贈としてカウント）

吉岡たかを氏は 1962 年、茨城生まれ。専門学校・東京映像芸術学院在籍時はアニメーション監督の神戸守、脚本家・長谷川勝己と同期。専門学校卒業後はシンエイ動画で制作進行などを務めアニメ制作に携わる。シンエイ動画退社後はビデオ業界やテレビゲーム業界を渡り歩き、フリーのライターとして独立。『金田一少年の事件簿』のゲームシナリオを脚本家・冨田祐弘氏と共同執筆した際に、冨田氏が手がけていた『下級生』のテレビシリーズの脚本を任せられ、シリーズ全 13 本中 10 本を執筆し、アニメ脚本家としてデビュー。多作作家として知られ、アニメ業界では珍しく 1 クールを一人で全話執筆することが多い。今回寄贈いただいた台本は 1999 年のデビュー作『下級生』をはじめ、『サクラ大戦』『無敵王トライゼノン』などの初期の脚本の他、『一騎当千』『Dears』『ゼロの使い魔』『吉永さん家のガーゴイル』などシリーズ構成と脚本を全話手がけた脚本などのアニメ台本 438 冊。

②鎌田敏夫氏（脚本家）

1937 年京城生れ。早稲田大学卒業後、シナリオ作家協会で学び、井手俊郎に師事。

1967 年テレビドラマ『でっかい青春』（日本テレビ）で脚本家デビュー。以後、『飛び出せ青春！』『俺たちの旅』など一連の『青春シリーズ』ドラマのメインライターを担当。1979 年映画『戦国自衛隊』を皮切りに『探偵物語』『里見八犬伝』『天と地と』等の角川映画脚本を執筆。1983 年にテレビドラマ『金曜日の妻たちへ』（TBS）がヒットし、『金妻ブーム』を巻き起こす。1987 年『男女 7 人夏物語』、1988 年『男女 7 人秋物語』（TBS）が大ヒット。

1994 年放送の『29 才のクリスマス』（フジテレビ）で文部大臣選奨、向田邦子賞受賞。2003 年に大河ドラマ『武蔵 MUSASBI』の脚本を執筆。70 才を過ぎても『いじわるばあさん』（フジテレビ）『シューシャインボーイ』（テレビ東京）『逃げる女』（NHK）など精力的に執筆活動を行っている。

日本脚本家連盟理事長。平成 30 年度には脚本アーカイブズのシンポジウムにもご登壇いただき、脚本アーカイブ活動に深いご理解を賜り、そのご縁から 2001 年放送のテレビドラマ『バブル』（NHK）の脚本 5 冊をご寄贈いただいた。

③鈴木悦夫氏

1944 年、静岡県生まれ。早稲田大学在学中から児童文学の創作を始め、児童図書編集者を経て作家となる。1969 年『祭りの日』で日本児童文学者新人賞を受賞。児童文学のかたわら、『おかあさんといっしょ』『ママと遊ぼう！ピンポンパン』『おはよう・こどもショー』などの子ども

番組の放送脚本も執筆。2020年7月、ご家族の鈴木郷太様より寄贈の申し出をいただき、1970年代から1990年代にかけての上記子ども番組や教育テレビの『母と子のテレビ絵本』『幼稚園・保育所の時間』やラジオ番組『クラシックものがたり』などの放送脚本のほか、1970年代のアイドル天地真理の梅田コマ劇場のショー台本『真理ちゃんの休日』や浅田美代子のリサイタル台本『ミュージカル美代子18才秋』などの時代を象徴する貴重な台本など合わせて194冊をご寄贈いただいた。

④横浜フィルムコミッション

横浜市は横浜の魅力を国内外に広く発信し、横浜の都市ブランド向上や集客増のためのプロモーションの一環として、市内での映像や出版物の撮影等に対応する横浜市の事業として映画・テレビ番組のロケハン、撮影のサポートを積極的に行っている。その事業を担当するのが横浜フィルムコミッション（横浜市文化観光局横浜魅力づくり室企画課内）である。2020年6月、フィルムコミッション担当の森氏より連絡をいただき、2001年放送の『私立探偵濱マイク』から2020年放送の『アライブがん専門医のカルテ』まで2000年代に横浜が舞台になった映画・ドラマの脚本325冊をご寄贈いただいた。作品タイトルは36もあり、多数の映画・ドラマが横浜で撮影されていることが窺える。中には2016年の大ヒットドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』や『海猿』『救命病棟24時第5シリーズ』などの話題作が多数含まれている。全国の自治体のフィルムコミッションには同様に多数の脚本を保有している可能性があるため、今後連携をはかり、所有台本の情報を共有することも必要と思われる。

⑤三浦浩児氏（脚本家）

1963年、東京生まれ。主にアニメ番組の脚本・構成を手がける。『ネクスト戦記 エーアガイッ』(1997年)、『エイオール』(1998年)、『ゴクドーくん漫遊記』(1999年)、『とっここハム太郎』(2000年)、『爆転シュート ベイブレード』(2002年)、『ガンバレード・オーケストラ』(2005年)、『韋駄天翔』(2005年)、『ふるるんしずくちゃん』シリーズ(2006～2007年)、『古代王者恐竜キングDキッズアドベンチャー』シリーズ(2007～2008年)、『トライブクルクル』(2004年)、『フューチャーカード バディファイト』シリーズ(2007～18年)など、テレビ映画アニメ作品多数。2020年8月、ご本人から申し出があり、2回に分けて『とっここハム太郎』の脚本を中心に522冊の脚本を御寄贈いただいた。

⑥渋谷幹雄氏（脚本家）

東映に入社後、1965年公開の東映映画『孤独の賭け』『可愛いあの娘』で企画担当。1969年公開の東映アニメ映画『長靴をはいた猫』の企画も務める。同年、フジテレビで放送のドラマ『フラワーアクション 009ノ1』をプロデュース。1970年に設立されたテレパックに移籍後、『怒濤』『太陽を見ず』（テレビ朝日系）、『土曜ナナハン・学園危機一髪』枠（フジテレビ）で放送された『ガラスの動物園』『子どもたちのいちばん危険な夜』『ふんどしとスニーカー』などの作品

をプロデュース。1980年代は、ホームドラマ『嫁がず、出戻り、小姑』、『月曜ドラマランド』枠の『どっきり天満先生』(フジテレビ)、1990年代には『青春の門』(東京12チャンネル)、『父への鎮魂歌』(TBS)、『蔵』(NHK)などを手がけた。2020年8月、ご家族の渋谷裕樹様より申し出があり、『学園危機一髪シリーズ』や『笑顔泣き顔ふくれ顔』『蔵』『銃口』『遠い日の戦争』などのドラマの企画書をはじめ『新世界紀行』の構成準備台本(コピー)、衛星チャンネル宛での番組企画書、アニメ映画『ぼくの動物園日記』企画書などの貴重な資料44点をご寄贈いただいた。

⑥ 柏原寛司氏 (脚本家)

1949年東京都中央区生まれ。1969年、シナリオ作家協会主催のシナリオ研究所の第22期を修了。日本大学芸術学部文学科在学中の1973年、東宝企画のアルバイトで子供向け特撮コメディ番組『クレクレタコラ』の脚本と製作助手などを経験。1974年、東宝企画のプロデューサー磯野理を通じ『傷だらけの天使』の脚本を担当。その後も制作アルバイトをしながら『俺たちの勲章』『俺たちの朝』などの脚本を手掛け、1977年『大都会 PARTII』で本格的にシナリオライターとしての活動を開始。以後、『大追跡』『探偵物語』『大激闘』『プロハンター』『あぶない刑事』『あいつがトラブル』などの刑事・探偵アクション作品や青春ものを中心に活動する。1980年代半ばから『キャッツ・アイ』『ルパン三世』『名探偵コナン』などのアニメ脚本も手がける。

柏原氏は自身の脚本を全てデジタル化して保存し、現物の脚本は処分されているが、今回手元に残っていた『西部警察』『ハンガマン』などのアクションドラマや『ルパン三世』のアニメ脚本など60冊を郵送にてご寄贈いただいた。

⑦ 馬嶋満氏 (脚本家)

テレビドラマでは1967年放送の『太陽のあいつ』(TBS)、1972年放送の『怪傑ライオン丸』(フジテレビ)、『ワイルド7』(日本テレビ)、映画では1968年公開の『砂の香り』1972年公開の『虹を渡って』(松竹)などの脚本を担当。テレビアニメ脚本は1969年『サザエさん』を皮切りに『ど根性ガエル』『UFOロボグレンダイザー』『魔女っ子チックル』『野球狂の詩』『釣りキチ三平』『ガンバの冒険』『ジャングル大帝』等、1990年代にかけて多数のアニメ脚本を担当。アニメ映画としては1985年公開の『アレイの鏡』1988年公開の『レディレディ』の脚本を執筆。児童向け図書も執筆されている。

2020年9月、奥様のともエ様より、1979年放送のテレビアニメ『円卓の騎士物語 燃えろアーサー』(フジテレビ)の脚本と企画書、絵コンテ、キャラクターデザイン等の貴重な資料36点を事務所に直接ご持参という形でご寄贈を受けた。

⑧ 故・舟橋和郎氏 (脚本家)

1919年、東京生まれ。兄は小説家の舟橋聖一。2006年、85才で死去。1943年、明治大学専門文科卒業後、菊池寛の秘書を経て大映企画部に就職。1946年『彼と彼女は行く』を発表後、

フリーに転身。1950年代～60年代にかけて映画『きけ、わだつみの声』『雁の寺』『おんな番外地シリーズ』『喜劇急行列車』『密命 陸軍中野学校』などの脚本を執筆。1956年頃からラジオやテレビドラマの脚本も執筆。『続 地方記者』(NTV)『孤独の空』(NHK)、『笑ってよいしょ』(NTV)などの作品が脚本執筆作品としてネットに記録されている。2020年11月、御子息の船橋健典氏より申し出があり、目白のご自宅に出向き、倉庫に保管されていた映画とテレビ草創期の脚本、ラジオドラマ脚本をご寄贈いただいた。テレビ脚本には1958年、宮城まり子主演のドラマ『まりっぺ先生』(NTV)や、『地方記者』『続 地方記者』『夫婦百景』(NTV)など1950～60年代に放送された草創期の貴重な脚本が合本されとても良い状態で保存されている。『裁かれる十代』『愛の海峡』などのラジオドラマ脚本と合わせて放送脚本124冊、『おんな番外地シリーズ』『喜劇旅行シリーズ』『特ダネ三十時間シリーズ』など1940年代～70年代の映画脚本200冊をご寄贈いただいた。

⑨石原プロモーション

石原裕次郎の個人事務所であるが、いわゆる普通の芸能プロダクションという括りからは外れ、大手映画会社に出来ない作品を作るという理想のもとに撮影用機材やクルーを自社で保有する映画製作会社。所属俳優は、浅丘ルリ子、黛ジュン、竹脇無我、寺尾聰、石原良純、峰竜太など多数。渡哲也、館ひろし、神田正輝、徳重聡など『西部警察』に出演した俳優が所属することから番組中の『大門軍団』になぞらえて『石原軍団』とも呼ばれた。1963年から73年にかけて『太平洋ひとりぼっち』『黒部の太陽』『栄光への5000キロ』など、裕次郎主演映画を中心に多数の映画を製作したが、映画産業は斜陽となり多額の負債を抱える。

70年代からテレビドラマに活動の場を移行。『太陽にほえろ!』のボス役の人気にあやかり、『大都会』『西部警察』などの人気刑事ドラマを制作し、映画で抱えた負債を完済し再建に成功した。1987年に石原裕次郎が亡くなり、渡哲也が社長に就任。制作会社としての活動は映画が1993年に、テレビドラマ作も2009年をもって終了し、以後は芸能プロダクションとして活動を存続。渡哲也の体調が悪化したことなどから2020年7月に2021年1月16日をもっての解散を発表。

脚本アーカイブズには解散発表2ヶ月後の2020年9月に事務所に保有していた脚本寄贈の打診があった。11月に段ボール箱12箱分、『西部警察』『大都会』『あいつがトラブル』『あぶない刑事』などの昭和の終りから平成にかけてアクションを見せ場にした刑事ドラマを中心に1067冊の脚本の寄贈を受けた。中にはプロデューサーや監督による書き込みがある台本も多数含まれているので、今後、番組制作過程などを考察する貴重な資料になり得ると思われる。

⑩鈴木康仁氏（放送作家）

作詞家・脚本家の杉紀彦氏に師事。1976年にラジオ番組『ハッピーサタデー ニッサンラジオプラザ』(ニッポン放送)の構成を手がける。1978年に始まった『話題独占! 全国歌謡ネットワーク』(テレビ朝日)、1981年に『おはようジョッキー』(NHK)、1980年に『岸田智史ソング

コレクション』(TBS)などの番組構成を手掛ける。放送番組と並行して数々のイベントも企画・構成。奥様の鈴木道子様より2021年2月に電話でご連絡いただき、宅配便にて放送台本29冊、イベント台本45冊、映画台本3冊の他、手書き原稿、イベントパンフレットなど多数の資料をご寄贈いただいた。イベント台本には『91年ミス日本グランプリ決定コンテスト』『薬師丸ひろ子メインテーマ完成披露会』『沢口靖子二十二才のときめき』等の芸能イベントの他にも『大洋ホエールズファンの集い』や『ヤクルトスワローズ激励会』『野鳥保護の集い』などがあり、構成作家の活動の幅広さが窺える。手書きのため、放送台本にはカウントしていないが、『日産ラジオプラザ』の手書き原稿がファイルに50回分以上保存されており、当時の司会者・関口宏と秋野暢子のやりとりも万年筆書きで読みやすく丁寧に記されている。当時のラジオ番組のメインであった電話・はがきリクエストの順位表も手書きで残されており、昭和のラジオ番組の詳細や歌謡界の状況を紐解く貴重な資料となっている。

故・志賀廣太郎氏（俳優）

1948年、兵庫県生まれ。1971年桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇学科卒業後、1973年までゼミの助手を務め、その後、ドイツやオーストリアで演劇、体操等を学びながら現地の日本人補習学校で国語の教師を務める。1977年帰国、1978年母校の非常勤講師となる。1990年、平田オリザの演劇に感銘を受け、講師を務めながら舞台に出演。1993年に正式に劇団員となる。1994年、CM出演後、オファーが増え、映画、テレビドラマに出演。『学校の怪談』『世にも奇妙な物語』を始め『美女か野獣』『離婚弁護士』『優しい時間』『半沢直樹』などの人気ドラマに脇役として出演。大河ドラマ『篤姫』『龍馬伝』、連続テレビ小説『純と愛』『マッサン』『とと姉ちゃん』にも出演を果たす。上司役や刑事役、教師役や医者役などを持ち前の風貌と洪い声で演じ、様々な場面に欠かすことのできない脇役として活躍したが、2019年に脳梗塞を発症して療養生活に入り、2020年4月、誤嚥性肺炎で亡くなった。享年71。2021年2月、弟の健二郎氏より『遺品を整理していたら台本が1冊だけ見つかった』と連絡があり、郵送にてご寄贈いただいたのは、1971年放送のポーラテレビ小説『舞いの家』の初回脚本。立原正秋の原作で、能の名門である宗家の落ちぶれていく様子と宗家にかかわる男女の愛と葛藤、悲劇を描いたドラマで、志賀氏は若い弟子の役で出演。空欄の配役欄に自身の名前と、能を舞うシーンの台詞が万年筆で書き込まれている。40代で本格的に俳優として活躍した志賀氏が若いときにドラマ出演していたことを示す貴重な脚本。Wikipediaによると、桐朋学園在学中に狂言、日舞、バレエ、体操とともに能を観世鏡之丞に学んだとあるので、その素養を見込まれたのキャスティングの可能性が考えられる。志賀氏の俳優活動の原点と思われる貴重な脚本をご寄贈くださったご遺族の思いに応え、この脚本が後世に残されるよう尽力していきたい。

エッジワークス（代表：山野辺一記氏（脚本家））

2003年に設立されたシナリオ制作会社。代表取締役は、放送作家協会会員の山野辺一記氏。ゲームの企画、プロット、チャート、シナリオ作成、アニメーションのシリーズ構成、シナリオ、

コミック原作、小説の執筆、演劇などイベントに関する脚本執筆の仕事を5名のスタッフと84名の外注スタッフで請け負っている。教育事業の一環としてエッジワークスで講師派遣している専門学校の学生をインターンシップの一環で入力スタッフとしてアーカイブズの作業を手伝っていただいた経緯があり、今回、ご寄贈の申し出をいただいた。

アニメ『アンパンマン』『パズドラ』『蒼穹のファフナー』『怪傑蒸気探偵団』等のアフレコ脚本340冊の他、企画書やA4用紙に書かれたアニメ脚本やゲームシナリオが初稿から決定稿までバージョン違いで200点以上ご寄贈いただいた。

故・青野暉氏（監督・脚本家）

1931年、愛媛県宇和島市生まれ。早稲田大学卒業後、1954年新東宝社に入社。当初は企画部配属だったが、演出部へ異動となり石井輝男の下で宇津井健主演の『スーパー^ジャイアンツ』シリーズの助監督を務める。1961年に新東宝が倒産した後、国際放映へ移籍し、1964年放映のテレビドラマ『いまに見ておれ』（東京放送）で監督デビュー。1968年、青島幸男主演版の『意地悪ばあさん』第1作（よみうりテレビ）と1981年の第3作（フジテレビジョン）で演出と脚本を担当する。1970年の『ハレンチ学園』（東京12チャンネル）、『おくさまは18才』（TBS）や1971年の『なんたって18才』（TBS）、1972年の『アイちゃんが行く』（フジテレビ）『ママはアイドル』（TBS）などの脚本を執筆。2020年7月死去。享年89才。2021年2月、奥様の幸江さんから申し出を受け、合本33巻にまとめられた脚本の寄贈を受けた。（冊数は来年度カウント予定）漫画原作のコメディータッチの作品が多く、昭和40年代当時小中学生だった世代には懐かしい脚本コレクションとなっている。

故・升本喜年氏（プロデューサー、脚本家）

1929年、熊本生れ。日本大学芸術学部（映画学科）卒業後、早稲田大学大学院（演劇学専攻）修了。1954年、松竹大船撮影所にプロデューサー助手として入社。1963年プロデューサー昇格、『大根と人参』（1965）、『アンコ椿は恋の花』（1965）、『男の顔は履歴書』（1966）、『コント55号』シリーズ（1968～）、『薄化粧』（1985）など、多くの作品を担当。松竹シナリオ研究所所長、松竹映像社取締役を経て、1988年、松竹退社。テレビドラマの企画制作会社『梟雄舎』を設立。2017年、死去。享年、88才。2021年3月、娘の由喜子さんより寄贈の申し出があり、1978年放送のテレビドラマ『大空港』（フジテレビ）の決定稿と準備稿50冊、1980年放送の『87分署シリーズ 裸の街』（フジテレビ）の決定稿と準備稿13冊を含めたテレビドラマ脚本69冊と、松竹時代の『真っ平社員遊侠伝』『アーロン収容所』などの映画脚本30冊をご寄贈いただいた。

2. 令和2年度 放送脚本資料等電子化作業の実施概要について

① 「表紙」撮影(1980年以前の脚本資料)

国会図書館への寄贈を希望している1980年以前に作成された脚本のうち、倉庫保管分の24,060冊について撮影を実施。

② ラジオ脚本、映画資料「表紙」撮影(合本)

倉庫保管中の合本など1,882冊について撮影を実施。

③ アニメ脚本「表紙」撮影

昨年度および新規寄贈分のアニメ脚本3,436冊について撮影を実施。

④ 市川森一氏 創作ノート等の本文撮影

故・市川森一氏が脚本執筆の際に使用した、直筆の創作ノート等13冊を全文撮影。

スキャニング数は563ファイル。

以下、作業仕様についての詳細を報告いただいた。

放送脚本資料等電子化作業の実施報告

(報告：株式会社ニチマイ)

【1】 放送脚本資料表紙撮影

(1) 作業内容

住友倉庫より輸送された放送脚本資料の表紙部分をスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業等全作業工程を弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業(資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査)
- 4) 二次画像検査作業(画質、傾き等の画像検査)
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様

- 1) 解像度：400dpi
- 2) 認識サイズ：原寸認識
- 3) 階調特性：24ビットフルカラー
- 4) データ形式
 - ①JPEG2000
 - ②PDF
- 5) 格納メディア

HDD

(4) 使用スキャナー

コニカミノルタ社製 EPICWIN5000CMK II Lab ×1台～2台 (弊社所有機器)



スキャナー仕様

出力解像度	200、240、300、400、600 (光学解像度 400dpi)
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレースケール、2 値
原稿サイズ	330mm×460mm
サイズ	W674mm×D787mm×H918mm
生産国、メーカー	日本 コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

※EPICWIN5000CMK II Lab の画像及び仕様はコニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社の当該機カタログより抜粋。

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

- ①全作業期間：令和2年4月16日～令和2年7月30日
- ②作業時間：9時～17時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

- ①スキャニング作業前整理作業：2名
- ②スキャニング作業：1名～2名 (文書情報管理士1級)
- ③一次画像検査作業：2名
- ④二次画像検査作業：2名
- ⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名 (内 文書情報管理士1級1名)

4) 作業数量

表紙部分のスキャニング作業：20,624 ファイル

【2】 ラジオ脚本（合本）、映画資料表紙撮影

(1) 作業内容

ラジオ放送脚本、映画脚本資料の表紙部分をスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業等全作業工程を弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

(4) 使用スキャナー（前述【1】脚本資料表紙撮影と同様）

※使用台数は1台

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

①全作業期間：令和2年6月8日～令和2年7月14日

②作業時間：9時～17時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

①スキャニング作業前整理作業：1名

②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）

③一次画像検査作業：1名

④二次画像検査作業：1名

⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）

4) 作業数量

表紙部分のスキャニング作業：1,882ファイル

【3】アニメ脚本資料表紙撮影

(1) 作業内容

放送脚本資料の表紙部分をスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業は、全て弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

(4) 使用スキャナー（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

※使用台数は1台

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

- ①全作業期間：令和2年9月23日～令和2年11月2日
- ②作業時間：9時～17時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

- ①スキャニング作業前整理作業：1名
- ②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）
- ③一次画像検査作業：1名
- ④二次画像検査作業：1名
- ⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）

4) 作業数量

表紙部分のスキャニング作業：3,436ファイル

【4】市川森一先生創作ノート等本文撮影

(1) 作業内容

市川森一先生創作ノート等の本文部分スキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業は、全て弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

(4) 使用スキャナー（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

※使用台数は1台

(5) 作業実施時期・場所等

- 1) 全作業期間等
 - ①全作業期間：令和3年3月3日～令和3年3月26日
 - ②作業時間：9時～17時
- 2) 作業場所
株式会社ニチマイ 本社作業場所
- 3) 作業体制
 - ①スキャニング作業前整理作業：1名
 - ②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）
 - ③一次画像検査作業：1名
 - ④二次画像検査作業：1名
 - ⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）
- 4) 作業数量
本文部分のスキャニング作業：563ファイル

【5】その他

1) 資料状態について

資料の一部については劣化しているものがあった。

2) 資料取扱いについて

封筒からの出し入れ時に、封筒に資料が引っ掛かる等で資料が傷まないように留意して作業を行った。

3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

資料と封筒の管理・・・脚本資料は封筒にはっている状態であり、スキャニング作業に当たり封筒からの資料の出し入れは1点1点ずつ行った。脚本資料本体には管理番号等ラベルが貼付されないので、封筒への戻し間違い等起こらないように実施した。

4) 資料形態等

・合冊製本されている資料について、脚本の表紙のみスキャニングを行ったので問題なかったが、合本製本の綴じがきつく本文にかかって脚本が多くあったので、本文をスキャニングする場合には解体等の解決策の検討が必要と考える。

・資料管理と作業効率上、リストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

(資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。)

5) 資料保管場所

弊社に持ち込まれた脚本資料は以下弊社セキュリティ体制のもと弊社耐火保管庫にて保管。

①耐火保管庫 外部及び内部画像



②資料保管場所他セキュリティについて

弊社本社への入館及び耐火書庫設置場所及び各作業場所へはセコム入退室カードシステムにより関係者以外は入室できない体制を整えている。

また、耐火保管庫設置場所及び各作業場所への入退室について日時単位で個人特定が可能な仕組みとなっている。

【寄稿文】アニメ資料の収集・保存に伴う法的な諸問題

福井健策／松澤邦典

1. はじめに

アニメ作品の脚本を収集する過程で、原画、絵コンテ、美術設定資料などのアニメ資料の寄贈に関する相談を受ける事例が発生している。しかし、アニメ資料の収集・保存に関しては、脚本の場合とは異なる形で「所有権・著作権の壁」¹に突き当たることになる。そこで、本稿では、脚本の場合と比較しつつ、このようなアニメ資料の収集・保存に伴う法的な諸問題について若干の整理を試みておきたい。

2. 所有権の壁

まず、寄贈対象のアニメ資料の所有者が誰であるかが問題となる。所有者以外の者から寄贈を受ける場合、原則として所有権を取得することはできない。また、所有者不明のまま寄贈を受ける場合、寄贈後に真の所有者から所有権に基づく返還請求を受けるリスクがある。そのため、アニメ資料の寄贈を受ける場合には、誰が所有者であるかを確認・検討しておくことが望ましい。(他方、返還請求を受ける可能性は認識しつつ、緊急避難的に寄贈を受ける選択肢はあり得るだろう。)

アニメ制作の目的で制作会社が印刷作成し、制作スタッフに交付するような種類のアニメ資料については、誰が所有者であるかは、テレビドラマ等の脚本の場合と同様に考えることができる。すなわち、原則として制作会社か、交付を受けた制作スタッフが所有者であると考えられる。もっとも、アニメの原画については、いわゆる「生原稿」の所有者は作家本人である可能性があるように、原画提供者が従業員でなく外部スタッフであった場合など、その者(あるいは彼/彼女の所属会社)が所有者である可能性もある。すなわち、アニメ制作のために原画を制作会社に預けていただけで、本来は原画提供者に返還されるべきものであった可能性がある。これは絵コンテや美術設定資料についてもあり得ることであり、印刷に回される前の生原稿といえるようなものは、描いた本人やその会社が所有者である可能性もある。このように、アニメ資料の元々の所有者が誰であったかについては、複数の可能性が考えられる。

また、アニメ資料が元々の所有者から転々流通して寄贈者が所持するに至ったという場合、取得の経緯や時期によっては、取得時効(民法 162 条)や即時取得(民法 192 条)が成立し、寄贈時点での所有者は寄贈者といえる場合もあり得る²。具体的には、寄贈者がいつ誰から取得したのか、前の持ち主(前主)はいつ誰から取得したのか、さらに前の持ち主

¹ 福井健策「講演録 花開くデジタルアーカイブと著作権・肖像権・所有権の壁」(月刊コピーライト 2018 年 10 月号、No.690)。

² 山元裕子・とちぎあきら「所有権の諸問題 — オープンフィルム等の寄贈に関する問題を例に」88 頁以下、福井健策監修／数藤雅彦責任編集『デジタルアーカイブ・ベーシックス 1 権利処理と法の実務』(2019 年、勉誠出版) 所収。

(前々主)はどうかであったという具合に遡っていき、それぞれがどのような取引での取得であったのか、前主を真の所有者と信じて取引したといえるかといった事情が、所有者が誰であるかの判断に影響し得る。

このように、アニメ資料の所有者の判断には、様々な事情が影響する。また、アニメ資料については、完成されたアニメに取り入れられなかったいわゆるボツ資料など、それを所持していること自体、制作会社や監督、デザイナー等から問題視されるリスクもあり得る。そのため、アニメ資料の寄贈を受けるにあたっては、元々の所有者の情報や寄贈者による取得の経緯や時期について、可能な限り情報を収集しておくことが望ましい。(現実には、資料の重要性や現実に当該資料のために割けるエネルギーとの比較で、可能な検討をおこなうことになるだろう。)

3. 著作権の壁

(1) 著作権者の特定の問題

アニメ資料は、おそらくそのほとんどが著作物といえることから、「所有権の壁」だけでなく「著作権の壁」も立ちはだかる。すなわち、著作権者が誰であるかが問題となる。しかも、その判断は、脚本の場合よりも相対的に難易度が高いと考えられる。

脚本の場合には、著作権者は原則として脚本を執筆した作家であると考えられる。原作がある場合には、作家に加えて原作者の著作権も及ぶが(著作権法 28 条)、いずれにせよ脚本に関する著作権者は作家と原作者(及びそれらの者から著作権を継承した者)に限られるケースが多い³。

これに対し、アニメ資料については、原画、絵コンテ、美術設定資料等をそれぞれ独立した著作物と捉えた場合には、その絵を描いた本人に原則として著作権が発生すると考えられる(著作権法 2 条 1 項 2 号、17 条 1 項)。しかし、制作会社と本人との間に雇用関係又はそれに類似する関係がある場合には、いわゆる「職務著作」に該当し、初めから制作会社に著作権が帰属する場合もあり得る(著作権法 15 条)。他方、雇用関係ではなく、制作会社と本人との間で業務委託契約が締結されていて、個別の契約のなかで成果物の著作権がどちらに帰属するかが規定されている場合も考えられる。あるいは、契約書をなくした、そもそも作っていないなどの事情から、制作会社と本人との権利関係が不明確で、著作権の所在を特定できないという場合も想定される。さらに、アニメ資料の制作過程に複数の人が関与している場合には、著作権者は複数に及ぶ可能性がある⁴。

このように、著作権者が基本的に作家と原作者に限られる脚本に比べると、アニメ資料には著作権者の特定が困難なものが含まれている可能性はより高いといえる。

³ 福井健策、吉見俊哉監修『アーカイブ立国宣言』(2014年、ポット出版)105～108頁。

⁴ 山川道子・金子利憲「アニメーション・アーカイブから見る資料を取り巻く権利とその問題点 —I.G アーカイブの事例より—」147頁以下、福井健策監修/数藤雅彦責任編集『デジタルアーカイブ・ベーシックス 1 権利処理と法の実務』(2019年、勉誠出版)所収。

(2) 公表権の問題

次に、脚本の場合には、その記載事項をほぼ含むといえる番組が放送されたことと共に、スタッフ全員に配布されて、しばしば100冊以上印刷されるという事実から、「公表」されたと見られるケースが多いと想定してきた⁵。そうであれば脚本は「公表著作物」となり、著作権法上、その使用可能な範囲は一般に広がりやすい。

しかし、アニメ資料について同様のことがいえるかは、別途検討する必要がある。それ自体が多数の人に配布されたといった事実を確認できない場合、これを未許諾で展示その他の方法で公開することは公表権（著作権法18条）の侵害に当たる可能性がある。特に、完成されたアニメに取り入れられなかったボツ資料では、このリスクは高まる可能性がある。

そのため、前述した制作会社や監督、デザイナー等が非公表のアニメ資料の公開を良しとしない場合には、公表権侵害を理由としてアニメ資料を阻止する事態も想定できる。著作権者の特定の問題に加えて、公表権侵害のリスクも「著作権の壁」といえよう。

4. おわりに

以上が、甚だ不十分ながら、アニメ資料のアーカイブに伴う法的な諸問題の整理である。本稿で触れた「所有権・著作権の壁」に対して実務上とり得る手段としては、寄贈時に受領するエンタシートの特記欄や別紙を活用して、寄贈者から聴き取った情報を記録に残すことが考えられる。可能な限り権利者の特定につながる情報を収集し、権利の所在の明確化を図ることは、2つの壁を乗り越える最大の手掛かりとなるはずである。

ジャパンコンテンツにおいてアニメがますます大きな存在感を持つなか、文化財としてのアニメ資料の歴史的価値は高まる一方である。他方で、「所有権・著作権の壁」は、脚本の場合よりも複雑な様相を呈する。これらの壁を乗り越えて収集・保存したアニメ資料の将来における利活用については、アニメ関係のアーカイブを扱う諸団体とも意見交換しながら共同で取り組んでいくべき課題と考えられる。

以上

⁵ 福井健策、吉見俊哉監修『アーカイブ立国宣言』（2014年、ポット出版）105頁。

第4章 目録の作成及びデータベース公開について

(目録の作成及びデジタル化(目録に関する研究))

1. 目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、データの標準化策定

1.1 現在の書誌採取の基礎項目は下記の通り

項目	記入例	Web 公開
管理番号	1 資料ごとにナンバリング。外袋のシールに表示される。 NDL001-0001 (国立国会図書館へ寄贈) など	○
旧管理番号	入力時に一時的に付与。分類後に新しい管理番号を付与。	×
合本	合本製本された脚本にマーク	○
分類	台本または資料、原稿	○
メディア	ラジオ、テレビ、映画、舞台、レコード・CD・カセット、ビデオ・DVD、web 配信、ゲームなど発表された媒体	○
ジャンル	ドラマ、構成、アニメ、映画、海外ドラマ、海外構成、人形劇、演劇、海外アニメ、海外映画、CM など	○
枠名	連続テレビ小説、大河ドラマ、金曜劇場、火曜サスペンス劇場、東芝日曜劇場など、固定された放送時間枠の名称	○
シリーズ名	シリーズ・街、ドラマ・人間模様、6月の花嫁シリーズなど、内容に共通性のある番組群の名称。	○
タイトル	番組の表題	○
タイトルカナ	番組表題のカナ書き	○
タイトル英語化	ローマ字で記載するにとどまり、翻訳には至っていない	○
サブタイトル	副題。各回につけられた題名。	○
台本バージョン	初稿、二稿、決定稿、改訂稿など脚本・台本の稿数。	○
劣化	紙の酸化など劣化が激しいものに○	×
状態	表紙の外れ、紙の破れ、ホチキスの外れ、コピー台本、規格外の大きさであるなど普通ではない状態の場合に記載	×
放送回	台本に記載している放送回	○
放送日	台本に記載された放送日	○
放送局	放送局	○
制作	放送局の他、制作会社など	○
作家名	脚本家、放送作家名	○
原作者	台本に原作、原案の記載があるもの	○
原作名	原作題名	○
出演	H28 年まで冒頭の 3 名記載。H29 年より全員記入	○
作品情報・備考	提供会社名、芸術祭などの受賞歴や、タイトル・サブタイトルが実際の放送と異なっている等、項目外の作品情報	×
寄贈元/属性	寄贈者/寄贈者が作家、制作者、会社などを記載	×
寄贈日	受け入れ日	×
権利処理	寄贈確認の書類送付の有無	×
個人情報	個人情報の有無、被覆作業の有無	×
演出/監督	演出、ディレクター、監督等	○

プロデューサー	プロデューサー、制作、企画	○
音楽	劇伴の作曲者、音楽監督等	○
美術・デザイン	美術・デザイン担当者。美術関連スタッフ（大道具・小道具等）はスタッフ備考に記載	○
考証・指導	時代考証、殺陣指導等	○
スタッフ備考	上記以外のスタッフをすべて記載	○
主題歌	台本に記載されたもののみ	○
尺（分）	放送された時間数（30分、2時間等）	○
放送時間	放送時間帯の表示（8:15～8:30等）	○
あらすじ	台本に記載のあるものは転記。 その他、ライターに依頼し600字～1000字程度作成	○

【脚本データベースに掲載中の書誌分布】（データベース掲載 82,834 件について）

①ジャンル別

	ジャンル	GENRE	件数
1	ドラマ	Drama	46,217
2	構成	Composition	20,215
3	アニメ	Animation	8,517
4	映画	Film	2,037
5	CM	Commercial	17
6	ゲーム	Game	6
7	イベント	Event	375
8	演劇	Play	1,016
9	人形劇	Puppet Show	743
10	時代劇	Historical Drama	300
11	特撮	Special Effects	11
12	歌舞伎	Kabuki	395
13	紙芝居	Kamishibai	3
14	海外ドラマ	Foreign Drama	1,441
15	海外構成	Foreign Composition	1,267
16	海外アニメ	Foreign Animation	134
17	海外映画	Foreign Film	65
18	不明	Unknown	75

計 82,834

②メディア別

	メディア	MEDIA	件数
1	テレビ	TV	63,294
2	ラジオ	RADIO	15,382
3	舞台	STAGE	1,748
4	ゲーム	GAME	11
5	館内	ONSITE	4
6	ビデオ・DVD	VHS,DVD	126
7	映画	MOVIE	2,131
8	レコード・CD・カセット	CD,VINYL,TAPES	116
9	インターネット	INTERNET	11
10	不明	UNKNOWN	11

計 82,834

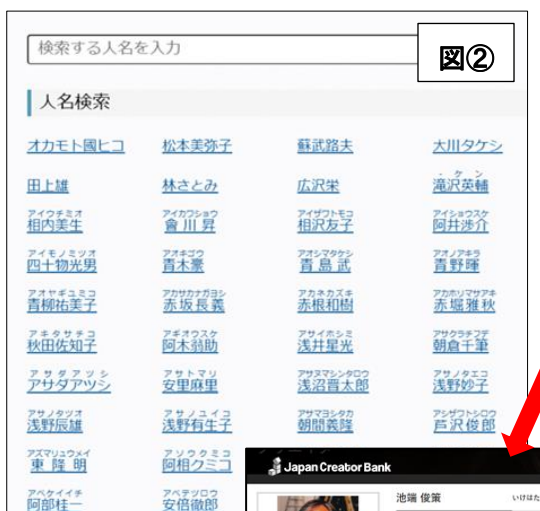
③年代別

年代	件数
1930	14
1940	116
1950	7,003
1960	16,906
1970	13,692
1980	12,044
1990	8,677
2000	6,629
2010	2,025
2020	2
不明	15,726

計 82,834

1.2 作家の階層部分を追加

- ・トップページに「詳細検索」と並び「人物検索」ボタンを追加(図①)
- ・寄贈された脚本の作家名が列記される(図②)。作家名から人物情報へリンク(図③)
- ・人物詳細ページから「Japan Creator Bank」(VIPO)にリンクし検索可能(図④)
- ・各資料詳細ページを閲覧(図⑤)。



大河ドラマ
太平記
寿生文
地上波授業

作家	酒井忠清
放送局	NHK
放送日	1991/1/13
放送回	2
管理番号	K01-51045-00
かな	タイハイキ
ローマ字	TAIHEIKI
分類	台本
メディア	テレビ
ジャンル	ドラマ
収録先	倉庫にて準備中

※[]内の情報は当該体の独自調査による参考情報であり、書誌原本に記載のあるものではありません。
 ※映画、演劇に関しては、放送日の欄の記載は「公開日」「公演日」になっております。
 ※ローマ字表記は「かな」から機械変換で表示しているため、不正確な場合があります。



Wikipedia
太平記



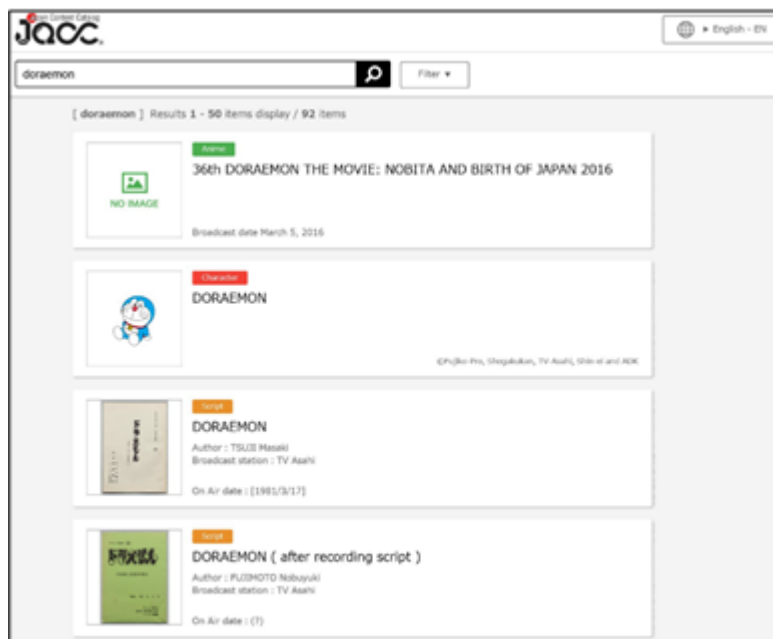
『太平記』（たいへいき）は、日本の古典文学作品の1つである。歴史文学に分類され、日本の歴史文学の中では最長の作品とされる。龍谷大学図書館『太平記』の研究。
[Wikipedia記事へ](#)

※出典: Wikipedia
 ライセンス: CC-BY-SA
 記事の最終日: 2020/09/17 06:52:04

図⑤

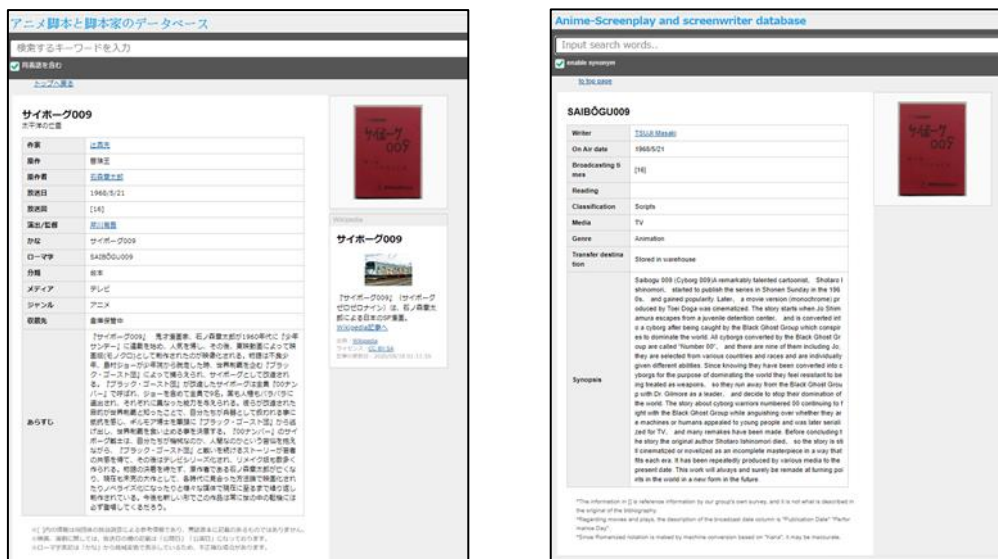
1.3 英語版サイト

2018 度より、海外からの閲覧を目指し、映像産業振興機構（VIPO）の管理する統合検索サイト「JACCサーチ」との連携を行っている。連携にあたり英語版サイトの作成を行い、2019 年 2 月に英語版サイトを公開。



JACCサーチ英語版での DORAEMON（ドラえもん）の検索結果

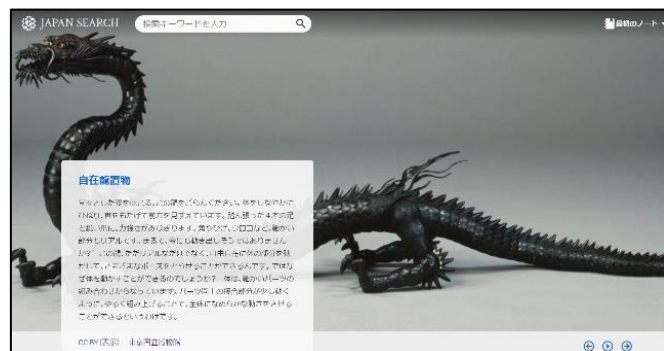
2020 年度は脚本データベースと連動して運用している「アニメの脚本と脚本家データベース」についても英語版を構築した。 <http://animedb.nkac.or.jp/>



アニメ「サイボーグ 009」詳細ページ（日本語版／英語版）

1.4 ジャパンサーチとの連携

上記 VIPO がアグリゲーターとなり、JACC サーチを通じジャパンサーチへの「脚本データベース」が連携データベースとして継続して掲載されている。



第5章 大学機関との連携研究

1. 大学連携研究

1.1 共同研究の概要

連携大学機関として前年度に引き続き、東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、国立国語研究所の研究者たちと共に研究会を開催し「脚本アーカイブズ」の利用方法の検討を行った。作業場所として、法政大学多摩キャンパス内に研究場所に集約し、脚本の書誌入力・管理および現物寄贈準備を行っている。

1.2. データベース「脚本データベースと日本の脚本たち」公開

公開中の脚本データベースは、寄贈された資料を記録する検索システム機能のみを有し、作品や所蔵先などのテーブルを別に設けるデータベース機能はない。書誌入力はエクセルに記載する形で行われ、統合・整理して流し込む方法を採用している。

2017年より大学連携研究により、並行して新たなデータベースを開発し、β版として管理画面と公開画面を作成した。今年度は現物資料としてのデータベースを元に、立体的に脚本家を表現できるサイトに公開した。同時に英語版も公開している。「作品」「人物」「脚本資料」に分け、資料を俯瞰する形式になっている。

『日本の放送番組・アニメーションから見る 脚本データベースと日本の脚本家たち』

<https://basdj.nkac.or.jp/>



1.3 オーラルヒストリー録取

昨年度までの大学連携研究のもう一つの柱はオーラルヒストリーの充実であった。日本大学芸術学部等に御協力頂き、学生の教育の一環として撮影・編集作業をお願いしたが、コロナ禍で大学の入稿が難しく、オンライン授業が中心となり撮影が不可能となった。

そこで、今年度は下記の方法でオーラルヒストリーの録取およびアーカイブ化を行った。

・Zoom を活用したオーラルヒストリーの実施

脚本家への所蔵把握と共に、脚本家へオーラルヒストリー（証言録取）を行った。

マスクを外した形で密になる場所での撮影が難しいため、ZOOM を利用して録画を実施。

さらに過去に撮影した動画を編集し、YouTube を経由して Web に掲載した。



・トークショー形式の録取

日本放送作家協会と連携し、人気番組の制作秘話をトークイベントの形式で証言録取した。

・過去のインタビュー番組のアーカイブ化

日本放送作家協会が放送した広報番組（ラジオ日本）で収録した 250 名（2 回分収録）インタビュー音声のテキスト化準備として、約 460 件の CD と台本のデータ変換を行った。

第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

1. 所蔵関係について

1.1 目録の統合の試行

- ・脚本所蔵情報および、以前より連携している所蔵館の書誌データ項目を精査し、書誌データの標準化を目指し「脚本データベース」目録項目の再検討を継続して行った。
- ・あらすじについて
放送ライブラリーで定期的に企画展示した作品やNHK「朝の連続テレビ小説」「大河ドラマ」などを重点的に作成。
アニメ作品については、300作品近くのあらすじを作成し、その半数を英訳した。
- ・英語版データの作成について
タイトルなどについて意味を翻訳するのか、単にローマ字化するのか、意見が大きく分かれる部分である。今後、所蔵館との連携研究の中で意見を伺っていきたい。

1.2 連携研究

①所蔵館の連絡研究

調査結果では、全国で脚本の所蔵館は公共図書館約100か所、その他文学館・資料館も30か所以上で「地域資料」として分散保存され、多くはOPACにも掲載されていない。過去の調査結果を踏まえ、公共図書館アンケートを再調査すると共に目録を再整理した。
前述した通り、新たに公開した大学連携で作成しているデータベースにおいて、所蔵館の目録を活用する方法について引き続き検討した。

- ・所蔵館へのヒヤリングについて
川崎市市民ミュージアムおよび放送ライブラリー、NHKアーカイブスとの連携のみ行った。
そのほかの所蔵機関へのヒヤリングは、度重なる緊急事態宣言により訪問が難しく、具体的連携は次年度継続して実施する。

②複本脚本の寄贈移管

新規の脚本移管先として、国際日本文化研究センターが加わった。
寄贈資料は、書き込みのない複本が対象となっている。複本は5,000冊近くあり、今年度はラジオ等の脚本808冊が移管された。次年度以降、テレビ脚本の複本などを順次移管すべく協議を行う予定。

- ・脚本寄贈に関する日文研のプレスリリース

https://www.nichibun.ac.jp/uploads/files/pdf/press_20200730_01.pdf

③川崎市市民ミュージアム所蔵の脚本移管

川崎市市民ミュージアムに寄贈した脚本約2万6千冊を移管する準備を行った。

256箱（写真：川崎市市民ミュージアム）に加え、法政大学に保管中の30箱を日本大学芸術学部所沢校舎の図書館へ移管予定。



②放送局との連携に向けた研究

昨年度に引き続き、在京キー局および制作会社等にもヒヤリングを計画していたが、コロナ禍で多くの製作現場で撮影や収録が中止する中、外部の者の入館は厳禁となった。

個別の連携案件として、シンポジウムやセミナーを通し、放送局に向けて脚本アーカイブズ活動のアピールにとどまった。次年度、オンラインを使用した連携の呼びかけを検討する。

第7章 委員会の開催

1. 検討委員会の開催

- ・第1回：2020年10月13日（火）15:00～17:00（於・日本脚本家連盟会議室）
- ・第2回：2021年3月24日（水）14:00～16:00（オンラインにて開催）
- ・分科会：2021年11月13日（金）14:00～16:00（於・日本脚本家連盟会議室）

緊急事態宣言などの影響を受け、通常6月に開催される第一回コンソーシアム理事会は、書面による審議に変更された。第二回は年度末にオンラインにより開催された。

理事会において今後の収集方針が審議され、川崎市市民ミュージアムの被災を受けて、平成以降の脚本の受け入れは行わない方針をたてた。今後の収集は「昭和期」に限定し受け入れる指針を検討委員会に諮ることとなった。

検討委員会は2回の開催にとどまったが、充実した議論が展開された。

①第1回検討委員会概要

第1回は国立国会図書館、文化庁のご担当が新規メンバーにかわられた事から、活動の前提からご説明する形で進められた。議論の中心は、2023年3月末以降のコンソーシアムの活動についてであった。

第1回検討委員会における吉見座長の閉会の言葉として、「収集活動に区切りをつけた脚本アーカイブズの今後の活動「ポスト収集」を考えるにあたっては最小限と最大限の両方のシナリオを考えておく必要がある。

最小限であれば、今あるデータベースや今ある収蔵物、そのネットワークを永続的に継続するプラン。継続のためのベーシックな予算を算定し、国やその他の諸団体にサポートして頂けるよう具体的な最小限レベルの設計が必要。

最大限は、今ある形を維持したうえで発展形の形を作るというプラン。世の中のデジタル化の波やアーカイブ振興基本法のようなものを作ろうという動きがある中で、コンソーシアムが収集した脚本10万冊のデータベースを作った実績を活かしたビッグプロジェクトとして行うべきではないか。」と提言された。

②第2回検討委員会概要

第2回から、川崎市市民ミュージアム（以下、市民ミュージアムとする）から、担当の学芸員および川崎市職員が参加され、2019年に被災後休館中の市民ミュージアムの今後の状況などが報告された。また日本シナリオ作家協会からは新たに窪田信介氏が委員として参加され、分科会のメンバーにも加わって頂いた。第2回の検討委員会では、作家団体の分科会が開催されたことを受け、活用法を視野に意見が出された。

収集されたコレクションを紹介する「アーキビスト」的な存在の必要性や、教育活用・回想法などのシニアに向けた活用可能性、共催による展示やトークイベント・セミナーも報告された。福井弁護士からは、アーカイブの活用についてモデルケースになる「緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業（EPAD）」の説明も頂いた。これらの委員からの発言を受け、吉見座長は下記のとおり締めくくった。

「このプロジェクトが向かう先にブレイクスルーというか光明が見える感じがした。脚本アーカイブズがこれまで蓄積した脚本を単に読んでもらうということではなくて、番組や脚本の魅力を発信することによって、自分も発信者である書き手になれるかもしれない、なってみたいという人たちの裾野を広げていく方向のブレイクになると思う。

EPAD 事業が文化庁の支援をいただきながら、脚本を実際に使って舞台に載せる立場でアーカイブ化をして使えるようにしていることがもう一つのブレイクだと思う。これを脚本アーカイブズに応用すると学校の生徒たちとか、番組を作ろうとしている市民団体とか高齢者団体とかの人たちに、脚本を活用しやすくなるロードを作ることができる。ビジネスモデルとしてお金に変える道もあるが、学校とか福祉とか地域でお金にはならないけれど公共的に必要なものを生み出すという価値がある。脚本という文化的な資産を公共的な物も含めて活用できる形にしていく作業がこのプロジェクトには残っているのかもしれない。

先ほどの EPAD 事業や、（作家志望者に向けた発信のような）日本放送作家協会との連携活動など、いい活用の形を考え、新たな公的資金を交えながら、自走を目指すのが良いのではないか。」

③分科会

検討委員会では活動報告が主となるが、分科会においては、2023 年度以降の収集活動の継続および利活用の方法に向け、より具体的な議論がなされた。

次年度においては、さらに早い時期から作家団体を中心とした分科会を立ち上げ、今後の活動を検討したい。

【検討委員会メンバー】 *印は新規メンバー

所属	氏名	役職
東京大学	吉見 俊哉	大学院情報学環教授（検討委員会座長）
日本大学	上滝 徹也	名誉教授(コンソーシアム副代表理事)
国立国会図書館	本多 真紀子*	利用者サービス部 音楽映像資料課 課長
日本脚本家連盟	金子 成人	理事・著作権委員長
	柳井 克朗	事務局長
日本シナリオ作家協会	佐伯 俊道	理事長
	窪田 信介*	会員/桜美林大学 准教授
	阿相 クミコ	監事
	関 裕司	事務局長
日本放送作家協会	さらだ たまこ*	理事長
	香取 俊介	理事
日本放送協会	藤澤 浩一	NHK制作局 制作主幹
	阿部 康彦	NHK アーカイブス
日本民間放送連盟	田嶋 炎	参与
放送番組センター	鈴木 貴尚	アーカイブ・事業グループ
川崎市市民ミュージアム	秋山 直大*	川崎市市民文化局市民文化振興室 収集品修復調整担当 係長
	植木 正之*	川崎市市民文化局市民文化振興室 市民ミュージアム調整担当
	佐藤 美子*	川崎市市民ミュージアム 学芸部長
早稲田大学演劇博物館	岡室 美奈子	早稲田演劇博物館館長
国立映画アーカイブ	岡田 秀則	主任研究員・資料室長
映像産業振興機構(VIPO)	楨田 寿文	事務局次長
日本脚本アーカイブズ 推進コンソーシアム	池端 俊策	代表理事
	石橋 映里	常務理事・事務局代表
	入山 さと子	理事・収集管理部門主任
文化庁	はな村 篤子*	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係長
	不破 佑太*	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係員
総務省	片柳 早苗	情報流通行政局 情報通信作品振興課 流通調整係長
法律アドバイザー	福井 健策	弁護士 日本大学芸術学部客員教授
	松澤 邦典	弁護士

【分科会参加メンバー】

所属	氏名	役職
日本脚本家連盟	金子 成人	理事・著作権委員長
	柳井 克朗	事務局長
日本シナリオ作家協会	佐伯 俊道	理事長
	窪田 信介	会員/桜美林大学 准教授
	関 裕司	事務局長
日本放送作家協会	さらだ たまこ	理事長
	香取 俊介	理事
日本脚本アーカイブズ 推進コンソーシアム	池端 俊策	代表理事
	石橋 映里	常務理事・事務局代表
	入山 さと子	理事・収集管理部門主任

第8章 シンポジウム、その他イベント

8.1 脚本アーカイブズシンポジウム

シンポジウムを下記のとおりオンラインで開催した。参加者 316 名（申し込み 395 名）。

今回で 10 回目を数えるシンポジウムの中で最多の参加人数となった。アンケートによると、参加者は東京近郊が約半数となり、地方から多くの参加がみられ、海外からも参加して頂いたことは興味深い。また SNS 告知による参加申し込みが約 50%をしめた。アンケートの結果においても、満足との回答が 90%を超え、シンポジウム等のイベントを定期的に行う事の重要性を実感できた。開催日が、池端代表の執筆した大河ドラマ「麒麟がくる」の最終回の翌週だったこともあり初参加が多く、脚本アーカイブズ活動への新たな周知につながった。

【シンポジウム概要】

- ・脚本アーカイブズシンポジウム 2021『脚本を残し未来に語り継ぐこと』
- ・日時：2021年2月14日（日）13時30分～17時（ZOOM ウェビナーにて開催）
- ・主催：文化庁、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
- ・共催：法政大学大学院日本放送脚本データベース研究所
- ・後援：国立国会図書館、NHK、日本民間放送連盟、日本脚本家連盟、日本放送作家協会、放送文化基金
- ・プログラム（敬称略）

【挨拶／活動報告】

- ・開会宣言：池端俊策代表（一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム）
- ・主催挨拶：所昌宏（文化庁参事官（芸術文化担当）付芸術文化支援室長）
- ・後援挨拶：吉永元信（国立国会図書館長）
- ・活動報告：石橋映里（同コンソーシアム 事務局代表・常務理事）

【第一部】鼎 談

「脚本アーカイブズのさらなる展開に向けて」

池端俊策（脚本家）

高野明彦（国立情報学研究所 教授）

吉見俊哉（東京大学大学院情報学環 教授）

【第二部】パネルディスカッション

「脚本に込められた想いとほ」

大石静（脚本家）

磯山晶（TBS スパークルプロデューサー）

岡室美奈子（早稲田大学演劇博物館館長）

藤田真文（法政大学教授、NPO 放送批評懇談会 常務理事）

脚本アーカイブズ・シンポジウム 2021

脚本を残し 未来へ語り継ぐこと

2021年2月14日（日）13:30～17:00 **オンライン開催**
事前予約制

第一部 鼎談
「脚本アーカイブズのさらなる展開に向けて」
池端俊策（脚本家）
高野明彦（国立情報学研究所 教授）
吉見俊哉（東京大学大学院情報学環 教授）

第二部 パネルディスカッション
「脚本に込められた想いとほ」
「ヒロシロパーソン」『感じるオン』『大団圓-櫻を忘れるまで』『知らなくていいコト』など
脚本のドラマを元にした脚本家対話。ZOOMウェビナー開催。
オリジナルドラマ制作の発展を中心に話します。

大石静（脚本家）
磯山晶（TBSプロデューサー）
岡室美奈子（早稲田大学演劇博物館館長）
藤田真文（法政大学教授・NPO放送批評懇談会 常務理事）

池端俊策 高野明彦 吉見俊哉 大石静 磯山晶 岡室美奈子 藤田真文

申し込み 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムHP 参加フォームから
<https://www.nksc.jp> シンポジウム申込
Tel:03-5210-7829 / FAX:03-5210-7821

主催：文化庁 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 法政大学
大学院日本放送脚本データベース研究所
後援：国立国会図書館 / NHK / 日本民間放送連盟 / 放送文化基金
日本脚本家連盟 / 日本放送作家協会

【ご挨拶】

○開会宣言 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム代表理事 池端俊策

この度は、このような会を催させていただき事を大変ありがたく思っております。

思えば15年ほど前、私の先輩の市川森一さんが、「画として失われていくドラマがある、過去に作られたドラマの画像が残っていない。特に1970年代の物で貴重なドラマがあるけれども、画像で観ることができない。せめて台本・脚本を保存して残したい」ということを発言されて、今日まで昔の脚本を集めるということはこのアーカイブズでやって参りました。それで10万冊を超える貴重な脚本・資料が集まりました。本当にありがたいことだと思いますし、これから集まった脚本をどういう風に利用していくか、これがどれほど面白くて大事な物であるかということをお皆さんにどうお伝えするかということで、本日お話いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○主催挨拶 文化庁参事官（芸術文化担当）付芸術文化支援室長 所昌宏

文化庁芸術文化支援室長の所でございます。本日は脚本アーカイブズシンポジウム2021「脚本を残し未来へ語り継ぐこと」にご参加いただきありがとうございます。

テレビやラジオの番組は時代背景や当時の生活文化を映し出す鏡であり、その製作の礎となる脚本・台本は次代に伝える貴重な資料となっています。文化庁では文化関係資料における各分野の特性に応じた保存の進め方について検討を進めて参りました。そのうちテレビ・ラジオ番組の脚本・台本につきましては、一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムさんに事業を委託し、資料の保存・活用を図るとともにデジタルアーカイブ化に関する研究を行っております。今後さらに事業を推進していくためには資料の所蔵館をはじめ関係機関の連絡を密にすることが重要です。本日のシンポジウムを通じてご参加の皆様がアーカイブの意義や今後の展開について有意義な意見交換をされることを期待しております。

最後となりましたがご登壇いただき登壇者の皆様をはじめ、本シンポジウム開催にあたりご尽力いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げますとともに引き続き皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

○後援挨拶 国立国会図書館長 吉永元信

ご挨拶の機会をいただきありがとうございます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大により従来の活動にも様々な制約がある中で、この度、脚本アーカイブズシンポジウムが開催されますこと心からお慶び申し上げます。今回は「脚本を残し未来へ語り継ぐこと」というテーマですが、保存すること良い状態で残して、それをただ残すだけでなくできるだけ多くの方々が利用できる形で継承していくということは、脚本をはじめ様々な有形無形の文化遺産にかかわる仕事を任されている私たちにとって最も重要な使命の一つです。同時に各種の電子媒体が発達した今日においては保存と利用の両立には資料の内容や所在情報をオープンにすること、権利処理、利用環境の整備など難しい課題があります。2012年の日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム設立以来、事務局の皆様をはじめ多くの関係機関、関係者の皆様のご尽力され、まさに本日のテーマでもあります「脚本を残し未来へ語り継ぐ」ための多彩な取り組みをされてきたことに深く敬意を表します。

国立国会図書館は2011年、文化庁との間で我が国の貴重な資料の次世代への確実な継承に関する協定を取り交わし脚本アーカイブズの活動に参加させていただいております。コンソーシアムで収集された脚本は全国の博物館、図書館、研究機関等に分散して収蔵されていますが、国

立国会図書館には1980年以前の放送脚本約2万7千点をご寄贈いただき東京本館で利用に供しております。コンソーシアムと協力してデジタル化した3156点の脚本は国立国会図書館のデジタルコレクションで提供しております。ほとんどの物は当館内のほか、東京図書館等に送信できます。ぜひ、ご活用ください。

また、コンソーシアムでは収集なされた脚本の情報や収蔵機関が確認できる脚本データベースを運用しておられ、表紙のサムネイル画像やあらすじの追加など拡充が進んでおります。データベースの関連では昨年8月に国立国会図書館がシステム運用を担うJAPAN SEARCHというデータベースが正式公開されました。JAPAN SEARCHは書籍、文化財、メディア芸術など様々な分野のデジタルアーカイブと連携して多様なコンテンツをまとめて検索できる分野横断型の統合ポータルです。現在、連携しているデータベースは118あります。脚本データベースもJAC（ジャパンコンテンツカタログ）を通じて連携しています。JAPAN SEARCHを一層発展させることで多くの方々が多様な資料やコンテンツにアクセスし、脚本の利活用が促進されることを期待しております。

最後になりましたが本日のシンポジウムが脚本の保存と未来への継承に向けてより充実した活動につながることを祈念しご挨拶とさせていただきます。

【第一部】鼎談「脚本アーカイブズのさらなる展開に向けて」

検討委員会の座長でもある吉見俊哉氏を司会に迎え、大学連携研究で構築されたサイト「放送番組・アニメーションから見る日本の脚本家と脚本データベース」を監修した高野明彦氏、コンソーシアム代表である池端俊策氏が加わり、脚本アーカイブの将来展望が語られた。最終回を迎えたばかりの大河ドラマ「麒麟がくる」の裏話が披露された。大河を例にとっても、同じ時代が何度も描かれる中、作家の目線で様々な人物描写が生まれる。作家がどのように発想するのか、その過程を資料群から読み取る研究など、データベースの活用の可能性が言及された。

アーカイブは記憶の「蔵」であり、過去の蓄積を未来につなげ活用できることが望ましい。さらに映像と脚本を対比させながら活用する重要さも言及された。

脚本アーカイブズ活動が提言されて15年。故・市川森一氏から山田太一氏、さらに池端氏へとバトンが渡り、デジタル時代を見すえて新たな段階に入ったことが伺える鼎談となった。



(司会) 吉見俊哉



高野明彦



池端俊策

【第二部】パネルディスカッション「脚本に込められた想いとは」

ドラマ「大恋愛～僕を忘れる君と」「恋する母たち」を手掛けた脚本家の大石静氏と磯山晶氏の二人を迎え、制作秘話が存分に披露された。オリジナル脚本を多く手掛ける大石氏からは、作品が生まれる過程や脚本家にとって大切にしていることなどが語られた。磯山氏からは、企画が局内でどのように成り立っていくのか具体的な作品名や脚本家名が飛出し、ネットニュースでは知ることが出来ない話題に笑いの絶えない座談会となった。

共にドラマ研究の第一人者である岡室美奈子氏と藤田真文氏がダブル司会の形で参加し、映像や脚本を保存する文化的価値についても語られた。



大石 静



磯山 晶



岡室美奈子



藤田真文

8.2 共催セミナー（オンライン）

VIPO と共催により、有料のテレビドラマ制作セミナーを開催した。

放送局や映画会社からの参加も多く、海外展開などのビジネス的な話題も多いセミナーである点が、他のイベントと異なる点といえる。

①ニューノーマル時代のテレビドラマの行方『恋はつづくよどこまでも』

脚本家・金子ありさ氏×TBS プロデューサー・磯山晶氏

聞き手：中町綾子氏（日本大学芸術学部教授）

②ヒットの法～ 国境を越えて共感されるヒロインの描き方～

脚本家・中園ミホ氏×テレビ朝日プロデューサー・内山聖子氏

聞き手：さらだたまこ氏（日本放送作家協会理事長）

8.3 後援イベント（オンライン）2021年2月23日～28日

日本放送作家協会主催のトークイベント“カフェラテ plus”について後援事業として、Zoom ウェビナーの管理や集客に協力を行った。人気番組等のクリエイターをゲストに放送作家が聞き手となり、番組の舞台裏を生配信の形で語る形式で行った。

1. 「ポットンと一軒家」の放送作家・伊藤正宏氏（聞き手・村上卓史氏）
2. 「裸の大将」シリーズのプロデューサー・内丸摂子（聞き手・さらだたまこ/東海林桂）
3. 「SASUKE」演出家・乾雅人氏（聞き手・村上卓史）
4. 「創作ドラマ大賞受賞者」による公募について（聞き手・井出真理）
5. 「麒麟がくる」の脚本家・池端俊策氏（聞き手・さらだたまこ/東海林桂）

8.4 展示企画

映像を所蔵する放送番組センターと連携し、放送ライブラリー内の1コーナーに脚本15～20冊を展示。年4回を目標に展示替えを行い、脚本アーカイブズ活動の周知を図り、脚本への興味を喚起した。

1. 1月～6月(休館時期含む)『懐かしのTVアニメ』
2. 7月～9月『医療ドラマ』
3. 10月～12月『おいしい「食」の脚本展』
4. 1月～3月『冬はホットに恋愛ドラマ』



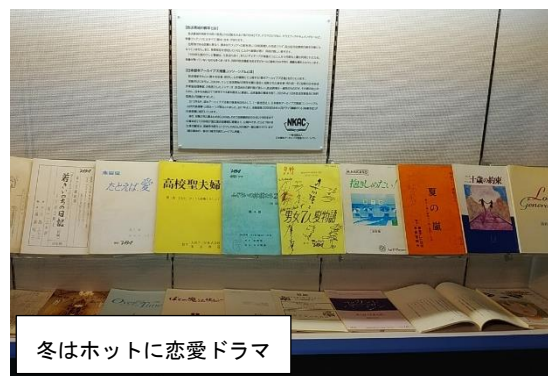
懐かしのTVアニメ



医療ドラマ



おいしい「食」



冬はホットに恋愛ドラマ

第9章 脚本アーカイブズ活動の今後の展望について

2018年度から新たに始動した、第二期「文化関係アーカイブ構築の調査研究」を5年間(2023年まで)の活動としてとらえ、これまでのデジタル化やデータベースの研究、脚本収集・公開の実行などを継続実施しつつ、以下のポイントを重点事項として研究調査活動を進める。

■ポイント① 「デジタル脚本アーカイブ」構想

データベースの統合化、放送局との連携を図る帰結として、ドラマ脚本のうち 代表作品 100 作を目標に、その全文(もしくは梗概)を掲載する Web サイトの構築・公開を検討する。脚本情報のほか、関連するインタビューや関連記事を閲覧可能にするなど、活用できるデータベースを検討。完成はテレビ開始 70 周年(2023年)を目標に権利処理を行いつつ公開を目指す。

■ポイント② 「映像とコラボしたイベントの定期的開催」

過去のシンポジウムで実証されたように、映像アーカイブと連携は脚本の価値の見直しに大きく繋がる。アフターコロナを見据え、映像とコラボした脚本アーカイブの有用性を掘り下げる。

■ポイント③ 「脚本アーカイブズの多言語化および海外連携」

脚本の英訳化に続き、多言語化(中国語化等)による国際展開の道筋を開発していく。さらにジャパンサーチとの連携研究を深めていく。

■ポイント④ 「1980年以前の貴重台本の移管」

最終年度までに収集を完了し、入力、複本の除外選別、燻蒸などの作業を行う。

2023年度末に国立国会図書館への第二期寄贈(3万冊を予定)が整うように実務的な交渉を進める。さらに、映画、演劇の他、アニメ脚本についても移管先の交渉を進める。

■ポイント⑤ 「データベースの移管」

現在、移管先での脚本閲覧は各館の OPAC に掲載されていないことから、脚本データベースで検索され、閲覧請求がなされている。「脚本データベース」の移管管理先の検討を進める。

※5年目以降の研究事業について

大学連携による研究費確保を検討する。

なお、活動の端緒となった「一般社団法人 日本放送作家協会」と連携を強く保ち、会員・賛助会員の共有化やスポンサーを募るなど、上記の発展的活動を行う。

脚本アーカイブズ活動は、文化庁、NHK、日本民間放送連盟、放送文化基金、日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本放送作家協会、国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム、国立映画アーカイブ、早稲田大学坪内記念演劇博物館、映像産業振興機構、放送ライブラリー、NHK アーカイブス、NHK 放送博物館、法政大学、日本大学芸術学部ほか多くの皆様のご協力とご支援により支えられています。心より感謝申し上げます。

令和 3 (2021) 年 3 月 31 日発行

発行 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

編集/執筆

石橋映里・入山さと子

〒102-0081 東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル 5 階

一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

TEL : 03-5210-7029 FAX:03-5210-7021

Email : nkac@hosakkyo.jp <http://www.nkac.jp/>

本誌の無断複写（コピー）は、著作権上の例外を除き著作権侵害となります。



本報告書は文化庁の委託事業として、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが実施した令和2(2020)年度「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。